

只見町議会議長 齋藤 邦夫 様

経済文教常任委員会
委員長 大塚 純一郎

経済文教常任委員会行政視察調査報告

本委員会の所管事項について、調査を行いましたので下記のとおり報告します。

記

1. 調査事項

- (1) 地域産業の振興に関する調査
- (2) 生活環境の振興に関する調査
- (3) 教育の振興に関する調査
- (4) 観光施設、交流施設の設置目的の検証と利活用に関する調査
- (5) JR只見線の早期全線復旧に関する調査

2. 調査場所 長野県松本市、原村、下條村

3. 調査日 平成29年6月21日(水)～23日(金)

4. 出席者 大塚純一郎委員長、藤田力副委員長、目黒仁也委員
鈴木好行委員、目黒道人委員、酒井右一委員

5. 調査内容

(1) 松本市「道の駅風穴の里」

立ち上げからの経過、運営、仕組み等について調査した。特筆すべきは、行政主体の設置ではなく、住民が主体となって施設を設置、運営している事だ。毎年、好成績を上げて利益を計上し、松本市に市納付金「320万円」を納付している。

(2) 原村議会

人口増加対策としての取り組みを積極的に実施している。

住宅団地の造成・分譲や、別荘地の分譲など積極的な政策が功を奏している。移住、交流人口の拡大受け入れ体制も注目される。

移住実証実験や、田舎暮らし案内人、ファン倶楽部の充実など、村の利点を活かした施策を実施している。中でも東京で開催される「ふるさと回帰フェア」の活用は効果を上げており、我が町でも実施可能な事業であると感じた。若者定住支援策も充実している。65歳以上の高齢者の就業率全国第一位を誇る。働くことで健康を維持し、健康ゆえに働き続けるという好循環が生まれている。「日本一元気な村」原村だ。

(3) 下條村議会

国に頼らない創意工夫の地域づくり「奇跡の村、下條村」

村の総人口3,985人、14歳以下の人口構成比が17.3%の734人。特筆すべきは前村長の強いリーダーシップによる住民の意識改革、職員の意識

改革、そして村の財政改革の実現が挙げられる。具体的には「資材支給事業」がある。村民自らが地域の生活環境を整備する工事に対して、村がその工事資材を支給する。

過去23年間で累計1647箇所、総額3億796万4314円を整備した。また、人口の拡大を支えた要因として、村役場の職員にコスト意識を醸成させ正規職員を59人から35人と4割以上削減し、全体として職員給与の圧縮も実現した。それらにより生じた余剰金を「若者定住促進住宅」の建設事業に充てたことが挙げられる。実に10棟178戸を建設した。

住民の行政ニーズの多様化や、行政の肥大化の対応が求められる現状で、極めて異例と言える。これらは前村長の強いリーダーシップによるところが大きい。

なお、昨年7月に前村長は退任され新体制となった。前村長の哲学がいかんにして引き継がれていくものか、今後も関心を持って注目したい。

以上